

会 議 記 録

作成部局課名 塩田地域自治センター

開催日	平成 21 年 2 月 20 日(金)	開催時刻	13 時 30 分から 16 時 20 分
会議名	塩田地域協議会(平成 20 年度第 12 回)		
出席者	委員 16 名(欠席者 4 名)		
事務局 出席者	出席職員 神林センター長 古川センター長補佐兼庶務企画係長 高橋地域交通政策課長、田中課長補佐、細川塩田公民館長		

会議次第

- 1 開会 (塩田地域自治センター長)
- 2 会長あいさつ (大口会長)

概 略 委員任期 2 期目の 1 年が経過しようとしており成果が出てきている。本日は、別所線電車存続について協議したい。補助金は、平成 21 年度切れてしまうが、今後どのようにしていくのか地域の課題となっている。議会での課題にもなっているので、協議会として協議し方向を出していきたいと思うので、よろしく御議論をお願いしたい。

3 協議事項

- (1) 塩田地域の公共交通について(担当課：地域交通政策課)

説明要旨 (地域交通政策課)

資料による説明

- ・ 別所線は、大正 10 年に開業し 88 歳となる。年間約 125 万人の利用があり最も多いときは約 180 万人の利用があった。
- ・ 平成 14 年に上田電鉄は、上田市へ公的支援を要請してきた。長野電鉄八代線も地域へ支援要請を行った。
- ・ 上田市として、公的支援を受け入れ安全対策に限定して補助を行ってきた。
- ・ 「乗って残す」を合言葉に存続運動を展開し、15%割引の自治会回数券を販売するなど 2 年連続で販売実績を伸ばしてきた。
- ・ 自治会回数券販売幹旋に対する沿線地域住民の協力は、年約 2,500 万円あり全体の収入の約 9%と大きな意味を持っている。他には各種イベントを開催した。
- ・ 昨年 5 月には、相染閣の開館に合わせて販売した「あいそめの湯ゆったり切符」は、月平均約 200 枚を販売した。
- ・ ラッピング電車の導入により、子どもの利用者が増加した。平成 19 年度は 2 年連続の利用者増となり、利用者目標を約 1,000 人上回った。また、平成 20 年には、国土交通省の交通関係環境保全優良事業者として大臣表彰を授賞した。
- ・ 別所線については、安全対策のための設備投資や修繕費として、過去 3 年間ずつ 2 回に渡り市として独自に補助を行ってきた。21 年度予算でバス事業に約 1.4 億円、同別所線に約 8,000 万円の補助を予定している。バスは、年約 145 万人の利用があり一人あたり約 98 円の補助となる、また別所線は、年約 125 万人の利用があり一人あたり約 65 円の補助となる。
- ・ 今後の課題としては、88 年の経過による千曲川鉄橋の安全性、耐久調査、塗装、土台の補強等国、県及び市の補助金による整備が必要である。
- ・ 支援期間の乗車人員の目標は、達成しているものの年間約 3,000 万円の赤字が

ある。

主な意見

- ・ 別所線電車存続期成同盟会の状況は、どのようになっているのか。
- ・ 自治会回数券の利用状況はどうか。
- ・ 別所線電車存続については事業者、行政、地域の協力が必要であり、22年以降の考え方や見通しはどうか。別所線を、観光に結びつけるため千曲川左岸（城南、川西）の協議会の捉え方はどのようになっているのか。また、上田原の、パークアンドライドなどの計画はどうか。
- ・ 他の地域協議会では、部会を設けて協議しているとも聞いているが、鉄橋の塗装にはどの位の改修費用が必要か。
- ・ 期成同盟会に入っているが、あまり利用していない。電車は、環境に良いので「環境」をキーワードに「乗って残す」活動につなげられれば良いと思う。
- ・ 電車は、塩田公民館へ9時までに来ることができなく不便である。バス停の時刻表に連絡時間等の表示を希望する。別所線の弁当を食べてもらいたい。
- ・ 自治会回数券を利用して、実際に乗車した人はどの位いるものか。実乗車人数の把握は必要と思う。またどうやって利用者を増やすか考える必要がある。
- ・ 大学前駅のパークアンドライドは、下本郷から侵入できなくて不便である。別所線は、どうやって乗ってもらうかが課題である。補助について、川東や川西地区は反対した経過があり、塩田地域全体が残すことに自覚を持ってもらいたい。単なる交通機関だけではないので。
- ・ 塩田中学校の利用者には、特に指示していないのでわからない。
- ・ 昔は、東塩田地区の中学生は、電車通学していたので住民意識の高揚が重要である。
- ・ 通勤、通学の定期代が高いと思う。
- ・ 通勤、通学の定期代を安くしてもらいたい。
- ・ 富士山地区は、バスの便が悪い地区である。
- ・ 地域交通は、一度廃止してしまうと二度と復活は出来ないもので、何としても残す努力をすべきである。自治会回数券を使いやすくしてもらいたい。
- ・ 逆の発想として、別所線がなくなった時を考えることも必要である。
- ・ 別所線廃止問題の当時は、電車を廃止してバス路線にと考えたが交通渋滞等について検討したと思う。
- ・ 高齢者に、年2~3枚の回数券を出すことを考えてみてはどうか。
- ・ 利用者の意見を聴いてみてはどうか。

回答

- ・ 期成同盟会の活動状況は、2月21日に別所線講演会を開催した。パークアンドライドの利活用をお願いしたい。
- ・ 自治会回数券の利用状況は、3月16日からの2ヶ月間は、1,296万円の売り上げがあり前年同期比6.2%の増加、9月16日からの2ヶ月間は、1,224万円の売り上げがあり前年同期比1.4%の減少で、20年全体では2.37%の増加であった。
- ・ 別所線の存続については、大きな支援（投資）が必要と考えおり、引き続き支援していきたい。バス利用者約140万人、電車利用者約125万人は、大きな公共交通の柱である。
- ・ 城南地区では、説明会や懇談会に出席したところ、部会作りについて協議していた。（道と川の駅部会もあるので）
- ・ パークアンドライドについては市議会議員、市職員の何人かが利用している。
- ・ 鉄橋の塗装には、約4,000万円位が必要であり、土台の補強費用については不明である。
- ・ バスについては、旧市街地を8の字方向の運用を行っており、回数券のおまけがなかったが21年度には復活する。（赤バス、青バス）
- ・ 自治会回数券の使用実態は分からないが、実態の把握は必要と考えている。中には、使われないものもあると思っているので、会社側と確認したい。
- ・ 自治会回数券は、平成18年から有効期間を1年間としたため利用が20%アップした。
- ・ バスの時刻表が分かりにくいと言われているので、3月に上田駅と大屋駅に分かりやすいものを出す予定である。また、各家庭に路線表を配布予定である。更に観光客用のmiura-oriの時刻表を作成する予定である。
- ・ 大学前駅のパークアンドライドは、乗降客の安全を考慮して柵をしてあるが会社側と協議したい。
- ・ 豊殿地域の循環バスは、地域住民が考えてやってきた経過がある。地域の高齢者に、外出をしてもらうことを目的に各戸1,000円の負担をいただき、不足分についてルールに基づいて補助をしている。
- ・ 豊殿地域は、約1,500の世帯数でマイクロタクシーの運営事業費は年間約250万円必要である。運行は、週2回、日4便の循環バスで振興会が計画して各自治会を経由している。事業は、地域住民が自主的に考えたもので、20年度は事業費の3分の1、100万円を限度に補助する。
- ・ 電車を廃止して、バスに切り替えた場合の費用対効果について検討した経過があり、30年で約82億円の影響としていた。
- ・ 高齢者の外出対策については、バス路線も含めても担当部局と協議したい。
- ・ 利用者の意識改革、大学前駅を中心に3大学が存在し、リサーチパークの企業も考慮してシャトルバスも検討している。企業や大学などでアンケートを取って検討することも考えている。
- ・ 武石地域のデマンドバスの利活用もあり、高齢者には理想だがお金が懸かるものであり難しい面がある。

(2) 学校支援地域本部事業について(担当課：塩田公民館)

説明要旨

- ・ 2月16日に第3回運営協議会を開催して活動のまとめを行った。環境支援については、2月28日にプランター鉢植えづくり体験を行う。学習支援では、2月23日から教員OBが日に3～4人支援に入る予定である。
- ・ 1月25日には、学習室の整備を行い基本的に誰でも受け入れる居場所を設置した。子どもに、地域の大人が目を向けている（注目している）ことを意識付けさせることが重要である。環境整備活動への協力をお願いします。

主な質疑

- ・ 各クラスの授業について行けない子どもの支援なのか。

回答

- ・ 教室へ入れない子どもへの支援であり、授業について行けない子どもへの支援は別途考える。

(3) その他

主な質疑

- ・ 地域協議会だよりの編集に関する事務連絡
- ・ わがまち魅力アップ応援事業「塩田平札所めぐり」検討委員会の開催事務連絡
- ・ ため池に関する委員会の開催事務連絡
- ・ 議題について、委員の意見を聴いたところ旧相染閣の跡地利用について、「塩田平札所めぐり」にため池を含めてはどうか、地産地消の推進について、ごみの減量化に対する取り組みの徹底化、ため池の草刈について等の意見が出された。

4 その他
特になし

5 閉会